

微破壊試験を活用したコンクリート構造物の健全性診断手法調査研究委員会
補修・補強の現状調査と課題整理部会（WG3）
第4回 WG 議事録（案）

議事録担当：松林

■日時：2011年6月23日（木）14:00～15:00

■場所：JCI会議室

■出席者：堤幹事長，岩波主査，濱崎副査，横沢委員，松林

以上5名（敬称略）

■資料：WG3 4-0 議事次第

WG3 4-1 前回 WG 議事録案

WG3 4-2 WG 資料（補修・補強の現状調査と課題整理部会（WG3））

WG3 4-3 2011.5.18 付メール依頼内容

WG3 4-4 潜伏期での予防保全のための微破壊／非破壊試験の活用事例
（濱崎委員）

WG3 4-5 補修事例の分析（鉄道）（谷村委員）

WG3 4-6 補修事例の分析（道路）（松林委員）

WG3 4-7 LCC の低減事例（横沢委員）

WG3 4-8 WG1 の取組み提案（横沢委員）

WG3 4-9 論文（劣化リスクの定量的な評価に基づく土木設備の補修時期および補修方法の最適化）

■議事：

1. WG 活動方針の確認

WG3 活動方針および今回の WG3 に向けた作業内容の確認が行われた。（岩波主査）

2. 収集した事例に基づく分析結果

2-1. 資料 WG3 4-4 の説明（濱崎委員）

- ・ 建築分野における点検・調査・診断・補修等の基本的な考え方，関連する法令，UR における予防保全の事例，官庁建物に関する維持保全の事例について説明があった。
- ・ 建築分野では，土木分野に比べて劣化や変状がわずかな段階で対策をとるための体系が構築されている場合が多い。
- ・ 法律により検査が義務づけられているが罰則規定が無いため実施されないことがある，検査法が規定されているが判定方法が明確でない，などの課題も残されている。

2-2.資料 WG3 4-5 の説明（岩波主査代理説明）

- ・鉄道分野より、早期に微破壊/非破壊試験を活用していれば LCC を低減できたと思われる補修，補強事例が 2 件提示された。

2-3.資料 WG3 4-6 の説明（松林委員）

- ・道路分野より、早期に微破壊/非破壊試験を活用していれば LCC を低減できたと思われる補修，補強事例が 1 件提示された。

2-4.資料 WG3 4-7,4-8 の説明（横沢委員）

- ・道路橋の補修，補強事例について、「橋梁定期点検要領（案）（2004 年）」が適用されていたと仮定して概算の LCC 試算を行い，予防保全の実施によって LCC が低減されることが示された。
- ・微破壊検査の現状として，小径コアの使用件数，使用目的に関するソフトコアリング協会のデータの紹介があった。

2-5.資料 WG3 4-9 の説明（堤幹事長）

- ・火力発電所揚油バース連絡栈橋 RC 主桁について，塩害の劣化機構と鉄筋腐食量データに基づき，劣化進行を確率的に表し，これに基づいて部材の残りの供用期間におけるトータルコストと劣化リスクを定量的に表した例が示された。

3.今後のスケジュール

岩波主査が、最終報告書の目次構成と執筆分担の案を作成し、各委員に送付する。

これを受けて各委員は作業を行う。

次回 WG の開催日時は、次回全体委員会よりも前に開催すべく、別途調整を行う。

以 上